

大島 幹雄さん (石巻若宮丸漂流民の会事務局長)

若宮丸との比較面白い



だったことである。

石巻・月浦から出帆した慶長使節は、海外との交易という壮大な夢、積極的な目的を持って出帆し、欧州の国々と交渉を試みた。

もう一つ、江戸時代の石巻には鎖国の中、日口交渉史に関わった海の男たちがいる。約220年前の千石船・若宮丸の乗組員たちだ。

若宮丸は石巻から江戸へ向かう途中、遭難し、

アリューシャン列島に漂着。日本と交易を願うロシア政府の意向もあり、漂流民たちは保護される。その結果、日本人で初めて世界一周する形で帰国を果たす。だが、若宮丸の場合、慶長使節との大きな違いは、漂流・遭難の結果であり、あくまで歴史に対して受け身

その中で強調しておきたいのは漂流民の中に帰化した者、あえてロシアに残った者がいたこと。日本に帰れるチャンスがあったのに善六のように日本語教師となり、ロシア側の通訳として日口交渉の表舞台に出てくる者もいた。全く異なる環境に屈しなかった。石巻の人たちには適応能力が備わっていたと言える。

慶長使節に、石巻人に、優れた国際感覚を見る思いだ。両者を比較し、国際交流史、交渉史に果たした役割、意義を検証していくのも面白い。

ディスカッション

「慶長使節の偉業と国際感覚」

佐々木 淳さん (石巻市教委生涯学習課課長補佐)

港町はコスモポリタン



慶長使節が太平洋、大てキリスト教が禁止され西洋を渡った時代は、スペインがユーラシアをはじめ、アフリカ、北米、中南米の交易を独占していた。そこに支倉の能力を使って割り込もうとしたのが伊達政宗だった。だが状況として許されなかった。出帆した1613年には、幕府によって

いかなかったなら、一方で慶長使節がうまくいったなら、政宗のリーダーシップによって伊達家が、東北地方に別の国家をつくっていたかもしれない。歴史の夢だが、支倉ら慶長使節の目的は達成されなかったが、地方の一大名が欧州と直接、外交しようとしたところに意義がある。政宗に野心的企てがあったのかもしれない。

慶長使節400周年記念シンポジウム

ある。横浜市在住。

ささき・あつし 1961年、石巻市生まれ。1997～2000年、県慶長使節船ミュージアム学芸員。論文に「近世港湾都市の成立と展開—奥州仙台領『石巻』について」などがある。

おおしま・みきお 1953年、石巻市生まれ。ノンフィクション作家。アフタークラウディカンパニー (ACC) 勤務。海外からサーカスや道化師を呼んで、日本でプロデュースしている。評伝など著書多数。翻訳に「レザーノフ『日本滞在日記』」(岩波文庫)が